

## サステナブルファッションによる新たな価値創造に向けた提言

令和 4 年 4 月 5 日  
自由民主党  
環境・温暖化対策調査会  
サステナブルファッションPT

気候変動の顕在化や生物多様性の損失など、迫り来る地球環境の危機を乗り越えていくため、2050年カーボンニュートラル実現に向けた脱炭素化の取組みとともに、大量生産・大量消費・大量廃棄から脱却し、資源を循環的に使い続けるサーキュラーエコノミー実現に向けた取組みが、世界中で始まりつつある。

こうした中、ある国際NGOの2017年の調査によれば、世界全体の繊維生産から排出される温室効果ガス（GHG）は、同時期の日本全体の温室効果ガス排出量に匹敵するとされ、また、世界全体では、使用された衣類の73%が焼却や埋立てで処分されるなど、ファッションの環境負荷については、大きなものとなっている。生活に不可欠であり、くらしを豊かに彩る存在であるファッションは、無関心な人はいても、無関係な人はおらず、この分野での取組みは、衣食住全体のライフスタイルを持続可能なものに転換していく上で大きな意味を持つ。既に海外では、ファッション分野の環境負荷の低減に向けた動きが加速しており、例えば、フランスでは衣類の売れ残りの廃棄を禁止する法律が施行され、また、グローバルブランドでは環境負荷を含めた生産背景の透明性を高める取組みが進んでいる。もはや、日本の繊維産業の健全な発展のためには、こうした潮流への対応について真剣な検討が迫られる時期にきている。

日本においてファッション産業は、消費者ニーズに対応し、安価かつ大量に衣服を製造・販売してきた国内外の繊維業界の潮流の中で、近年供給量は増加しているものの、一着当たりの単価が低下し、人口減少も反映した産業全体の市場規模の縮小が続いている。また、適正に処理されているとはいえ、市場に新たに供給される衣類の65%に相当する衣類がリサイクルもリユースもされず、そのまま焼却・埋立てされていると推定されている。その中でも、衣類のリユース・リサイクルなどの資源の有効活用を始め、持続可能なファッション及びファッション産業の実現を目指す「サステナブルファッション」に様々な形で取り組み、若い世代を中心とした関心を捉える企業も出てきている。また、気候危機対応として政府が進めているクールビズやウォームビズには、日本の技術力で開発された快適性を追求した多機能・高機能な繊維が大きな役割を果たしている。しかしながら、まだまだ生活者の認知も問題意識も、ライフスタイル全体を変革する力となるほどの大きなうねりとはなっていない。

かつて、シャネルが女性の社会進出を後押ししたように、ファッションは価値を創造し、時代を創る力がある。SDGs・カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーという時代の転換点をチャンスと捉え、日本のファッション業界が持つ高いデザイン

力や技術力を生かしながら、サステナブルをベースに新たな価値を創造していくことは、生活者の意識変容を促してライフスタイルシフトを後押しするとともに、国内産業の国際的な競争力を生み出すことにもつながる。国民全体が新しいライフスタイルの一步としてサステナブルファッションに意識的に取り組んでいくために、立法府が果たすべき役割は大きい。党としても、サステナブルファッションへの行動を促すメッセージとして、社会のあるべき姿や実現に向けた推進体制等を示したサステナブルファッション推進法（仮称）の新たな整備も含め検討を進めるべきである。

サステナブルファッションPTは、こうした認識の下、企業、生活者が「適量生産・適量購入・循環利用」と「適正価格」を基本としてサステナブルファッションについての理解と行動を進めていくことができるよう、累次のヒアリングを踏まえ、政府に対して関係省庁が一丸となって取り組むための体制整備を求めるとともに、下記の提言を行う。

## 1. 新たなサステナブル市場に対応した経営の推進

国内外の繊維業界は、消費者のニーズに対応し、安価な衣服を大量に製造・販売し、さらにセールを行うことで、販売量を伸ばすための経営を行ってきた。しかし、今日、世界の市場からのファッション業界への期待は、現状を変革し、サプライチェーン全体でサステナビリティを追求しつつ、収益の向上につなげていく経営である。

その第一歩として、業界全体で、在庫を抑えて、過度な値下げを抑制し、稼ぐ力を強化する取組みを進めるべきである。政府は、適量発注・適量生産・適量供給のためのDXの推進等、方策を講じること。

## 2. 衣類回収のシステム構築とリサイクル技術の高度化

衣類のリサイクルを進めるためには、繊維をリサイクルした場合のライフサイクル全体のCO<sub>2</sub>排出も考慮しながら、回収後に選別・リサイクルされたものが原材料として利用されるまでの一連のルートが経済的に成り立つことが必要である。

衣類は混紡品が多く、ファスナーやボタン等の副資材を含めると複数の異なる素材が用いられていることから、リサイクルに手間とコストがかかる。川上から川下まで、共通の配慮事項（環境配慮設計）を共有することが必要である。

また、回収された衣類が確実にリサイクルされるには、生活者が衣類を回収に出しやすい環境づくりとともに、回収後の繊維の選別や、繊維のケミカルリサイクル等に関する技術開発がなされ、普及していく必要もある。

このため、生活者が手軽に衣類を出せる回収の仕組みづくりと、包括的かつ、高度な選別やリサイクルに関する技術開発・実証・社会実装に戦略的に取り組む企業側の体制作りを両輪で進めるべきである。政府は、技術開発、回収・選別・リサイクルのエコシステムの徹底したコスト削減、需要創出の取組みが総合的に進んでいくよう、実態を把握するとともに政策的支援を含む必要な施策を講じること。

### 3. サプライチェーンの透明性の確保と環境負荷の把握

SDGs や ESG 経営の流れが加速する中、投資家の関心に対応し、CO2 排出量など生産背景の透明性を高めることは、ブランドにとってもサプライヤーにとっても国内外の市場で生き延びるための必要条件である。しかし、透明性を高めるために把握・開示すべき情報とその把握方法や、そうした情報が定量的に比較評価できるのか等について、知見が十分出そろっておらず、業界内で共有されていないのが現状である。

このため、政府は、より多くの企業が廃棄量を含む環境情報を積極的に開示していく環境をつくるとともに、個社での計算が難しい素材特性を加味したサプライチェーン・ライフサイクル全体の CO2 排出量を把握し、共通のフォーマットで計算・可視化できるようにするなどの方策を講じること。また、企業と家庭から排出される衣類の量を整合的に推計し、効果的施策の立案に活用していくこと。

### 4. 生活者の理解と行動変容の促進に向けたラベリングと情報発信

衣類は生産段階での CO2 排出や水の使用量が多いことから、適切なケア・リユース・リペアを行って長く着ることが、環境負荷低減のために効果的である。

国内には高度な技術をもつ産地企業が多く、リユースできるような付加価値の高いものを製造することができる。また、近年普及しつつある衣服のサブスクリプションは、適切なケアが行なわれれば寿命が長くなり、所有権が企業にあるのでリサイクル等の有効活用に繋がりやすい。また、所有とレンタルの組み合わせで、接客の入りが増えるため、業界にもメリットがある。

このため、企業がサステナブルファッションに取り組み、生活者がこれを選択・行動する正のスパイラルを生み出すことがサステナブルファッションの促進には重要である。

政府は、関係業界等と連携し、生活者の理解と行動変容を促すための方策として、サステナブル製品・リサイクル製品や環境配慮設計の製品の効果的なラベリングの具体的枠組みづくりを検討するとともに、CO2 排出量の見える化、回収などに対する行動変容インセンティブの付与などに企業とともに取り組むこと。

また、政府は、付加価値の高いものを長く使っていくことがよいといった意識を持ってもらうための情報発信に積極的に取り組むとともに、クールビズやウォームビズ、3R（リデュース、リユース、リサイクル）などサステナブルなライフスタイルを推進する機会を通じて、相応しい素材やファッション、行動について発信すること。情報発信にあたっては、「サステナブルファッション・サポーター」を活用するなどインフルエンサーやファッションメディアなどと連携して進めること。